

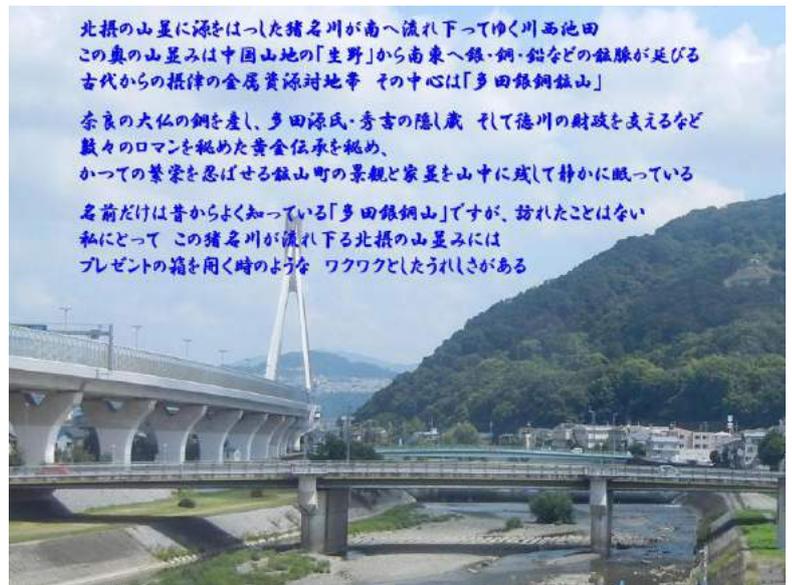
東大寺大仏の銅伝承が残る 摂津国 北摂の鉱物資源帯 能勢・猪名川

多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く 2016. 8.18& 8.24.

最盛期の江戸時代の街道筋の景観や家並・多数の間歩(坑道)などがそっくりそのまま残る
また、すぐ近くで 銅の露頭がみられるのにもびっくりしました



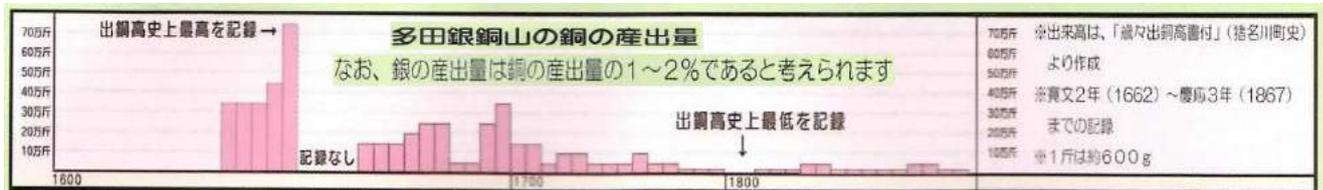
多田銀銅山を中心とした兵庫県猪名川町や川西市、宝塚市、そして大阪府豊能町など十数キロ四方に広がる山里の地域には、古代から多数の小規模な鉱床が散在する鉱山地帯。その中心、猪名川町多田銀銅山は銀・銅を主とする大鉱山。その最盛期は16世紀後半～18世紀前半、吹屋（ふきや）（精錬所・採銅所）が76軒も立ち、そのにぎわいは「銀山三千軒」と呼ばれた。江戸時代には、新たな銀の大鉱脈が発見されると幕府直轄となり、最盛期、その生産量は銀で佐渡銅で足尾に次ぐ大鉱山となって国をささえた。その後、資源の枯渇とともに衰退しつつも、明治になって民営化されるが、引き続き昭和40年代まで生産がつけられたという。



北摂の山並に源をたつ猪名川が南へ流れ下ってゆく川西池田。この奥の山並みは中国山地の「主野」から南東へ銀・銅・鉛などの鉱脈が延びる古代からの振津の金属資源対地帯。その中心は「多田銀銅山」。

奈良の大仏の銅を産し、多田源氏・秀吉の隠し蔵、そして徳川の財政を支えるなど、数々のロマンを秘めた黄金伝承を秘め、かつての繁栄を忍ばせる銀山町の景観と家並を山の中に残して静かに眠っている。

名前だけは昔からよく知っている「多田銀銅山」ですが、訪れたことはない。私にとって、この猪名川が流れ下る北摂の山並みには、プレゼントの箱を開く時のようなワクワクとしたうれしさがある。



東大寺大仏の銅伝承が残る 摂津国 北摂の鉱物資源帯 能勢・猪名川

多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く 2016.8.18&8.24

【 内 容 】

【2016.8.19. 多田銀銅山の鉱山町「銀山」を歩く】

1. 猪名川町広根「銀山口」から銀山川に沿って 多田銀銅山の鉱山町「銀山」へ
2. 悠久の広場 明治の銅精錬所跡 & 悠久の館 多田銀銅山関係展示見学
3. 悠久広場から 多田銀銅山の鉱山町「銀山」の街歩き
代官所跡・銀山橋高札・本町(甘露寺・本町の家並)・銀山川源流の合流点
4. 多田銀銅山の「山の神」金山彦神社・青木間歩の坑道内見学
5. 多田銀銅山の大露頭から大切間歩・瓢箪間歩へ

【2016.8.19.多田銀銅山の鉱山町「銀山」の再訪 疑問点を確かめる】

1. 多田銀銅山の江戸時代の繁栄をもたらした銀の大鉱脈が開坑された大口間歩の位置？
2. 鉱山町「銀山」江戸時代の製錬場(採銅所)がよくわからない
3. 多田銀銅山の製錬スラグは磁石にくっつかないのか……
4. 現説資料で知った間歩や銅選鉱・製錬遺構が出た猪淵谷坑道群 間歩ヶ谷支群
新名神道路建設中の県道324 猪淵川沿いを西へ遡る

◎ 追補参考資料と参考資料リスト





銀山口から多田銀銅山へ



多田銀銅山への道 2016.8.19.

銀山口から多田銀銅山へ



道のすぐ下に 銀銅山から流れ下ってきた銅山川が見えるが、水量は少ない穏い流れ

銀山口から多田銀銅山へ



多田銀銅山への道 2016.8.19. 白金2丁目バス停からの多田銀銅山へ
かつての鉱山道はこの崖の上を通っていたようで、この崖上に80m×40mほどの大きな石の基礎があった

銀山口から多田銀銅山へ



多田銀銅山への道 猪瀬・肝川の集落への道との分岐 11:28
道の左手へ 銅山川に降りて渡り、さらに尾根を越えて、猪瀬・肝川の集落への道との分岐

銀山口から多田銀銅山へ



多田銀銅山への道【2】 白金2丁目バス停から 螺旋階段へ 2016.8.24.

銀山口から多田銀銅山へ



多田銀銅山への道【2】 2016.8.24.
パークタウンの中にある白金2丁目バス停から西へ住宅街を抜けて、崖の縁から螺旋階段を下りて、崖下の多田銀銅山の道へ合流
かつてはこの崖の上に大坂口書所があったようだ

銀山口から多田銀銅山へ



多田銀銅山への道 銀山町集落の入口 2016.8.19. 11:34
螺旋階段から大坂口まで囲まれた工場作業現場の横に猪名川ふれあいバス銀山のバス停 銀山町に入った。

銀山口から多田銀銅山へ



多田銀銅山への道【2】 白金2丁目バス停から 螺旋階段へ 2016.8.24.

銀山口から多田銀銅山へ



多田銀銅山への道 2016.8.19. かつての鉱山町「銀山町」の集落の中に入る

銀山口から多田銀銅山へ



多田銀銅山への道 2016.8.19. かつての多田銀銅山の鉱山町「銀山」集落の入口。すぐ、迂行したらだら坂の峠から家並が見え、猪名川町銀山町の集落に入る



多田銀銅山への道 2016.8.19. かつての多田銀銅山の鉱山町「銀山」の集落の家並

銀山口から多田銀銅山へ



多田銀銅山への道 2016.8.19. かつての多田銀銅山「銀山町」集落の家並

多田銀銅山walkのセンター 悠久広場



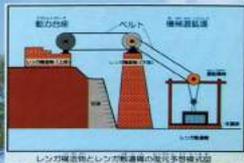
明治のレンガ構精錬所跡が見える悠久館前 多田銀銅山悠久広場 2016.8.19. 11:40

銀山口から多田銀銅山へ



多田銀銅山への道 2016.8.19. かつての多田銀銅山の鉱山町「銀山」集落の家並。多田銀銅山盛盛期には吹簾などの産物が四角にびっしりで「銀山三千軒」と呼ばれたという。

多田銀銅山walkのセンター 悠久広場



レンガ製造機とレンガ製造機の動力多田銀銅山

明治40年に建設された電機製煉所跡の機械選鉱場のレンガ積み復興モデル。発掘調査で、機械選鉱場に並び製煉場があったことも確認されているが詳細不明。復元位置は正確でない。

多田銀銅山walkのセンター 悠久広場



志合には明治の精錬所跡。その後には寛永年間の繁栄期を支えた大口開歩など多数の開歩がある険しい山。悠久の広場 2016.8.16



多田銀銅山の資料館「悠久の館」

悠久の館の傍、銅山の町「銀山」の町並み



街並・間歩見学walk

多田銀綱山の山の神 金山彦神社 社殿 2016.8.19.



街並・間歩見学walk

多田銀綱山の山の神 金山彦神社 長い石段道を上り終えた境内 2016.8.19.



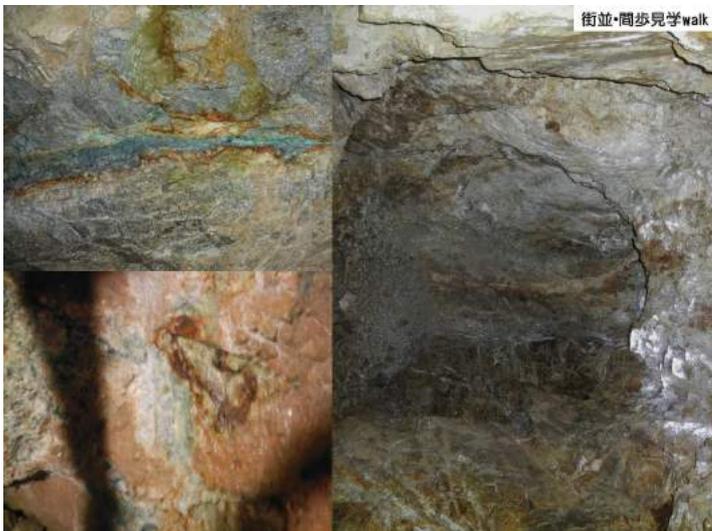
街並・間歩見学walk

青木間歩 2016.8.19. 12:34
 昭和に入ってから機械掘りで探掘された間歩で、唯一内部が一般公開されている



街並・間歩見学walk

金山彦神社のもも木の街道へもどり、御山山頂の御社を過ぎて北の青木間歩へ。2016.8.19.



街並・間歩見学walk



街並・間歩見学walk

青木間歩 坑道の中 銅・鉛鉱脈も見えて、よほどですが、正確にはわかりず。2016.8.19.



街並・間歩見学walk

この坑道の年代は特定
 できませんが、風化に
 沿ってノミや夕刈ネを
 使って掘った手掘りです。



街並・間歩見学walk

青木間歩 2016.8.19. すぐ上にある手掘りの坑道跡を見に行こう



坑道内の水抜き痛風穴 2016.8.19
青木間歩のすぐ近くですが、同時に白鷺の白鷺の山と、どの間歩につながっているのか、不明です。



12:47 さらに北へ街道を遡って 大所間歩・瓢箪間歩へ



昭和41-46操業の白鷺多田鉱山事務所 2016.8.19.
すぐ奥に見えるのが台所間歩の案内



水抜き穴からすぐ 台所・瓢箪間歩への道(左)とまっすぐ田原番所への街道(右)の別れ 12:49
左へ折れて、大露頭の見える台所間歩・秀吉の隠し蔵瓢箪間歩へ向かう



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19. 13:02
白鷺鉱山事務所を過ぎると目の前にむき出しの岩山が正面に立ちあがった。その横断には黒銅銅多田露頭となっていました。すぐ横に台所間歩があり、どちらの間歩もこの露頭の趾を採掘する坑道だったと思われる。

露頭が地表に露出している部分を露頭といいますが、多田銀銅山露頭では約1,900万年前、マグマ上昇により形成されたマダマの上部に溜まっていた金属等を溶かし出した熱水が、非常に高い圧力によって岩の割れ目や節理に沿って上昇し、地表近くの浅い場所で冷やされ、石灰と石英とを主成分とする黒銅を形成(黒銅鉱)し、その後の地殻変動でその部分が山となり、山の崩壊作用によって崩れ、崩壊した岩に現れてくる。これを露頭と称する。地帯的ならぬ約30m、大きいものは10mに5割よび、何となくには台所前部や瓢箪取掘歩がある。



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19. 13:02



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19. 右半葉内板すぐ横に台所間歩がある



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19.
黒ずんだ岩肌の中に白い細長い部分があるのが、地表に露出した石英脈のようだ。



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19.



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19. 右手案内板すぐ横に台所跡がある



石英脈脈の一例

多田銀銅山 大露頭 2016.8.19.



多田銀銅山大露頭の北端道脇にある台所跡 2016.8.19.



飄箒間歩を見にさらに北へ 2016.8.19. 13:00
道脇の谷川を渡ったところが徳久寺跡の空堀。降りると谷間間歩の入口が見えていた。



銀山史跡案内板

台所跡



多田銀銅山 飄箒間歩 2016.8.19. 13:30



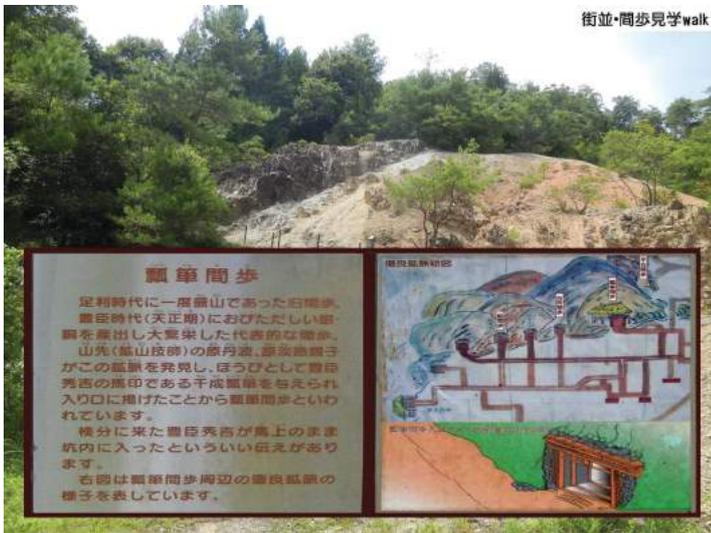
銀山史跡案内板

飄箒間歩

多田銀銅山 飄箒間歩 2016.8.19. 13:30



羅華間歩のすぐ奥が峠状の広場に見えたので行って見ましたが、腐葉とごみが散乱していたので、今日はここでストップ、引き返すことにしました。 2016.8.19. 13:32



羅華間歩

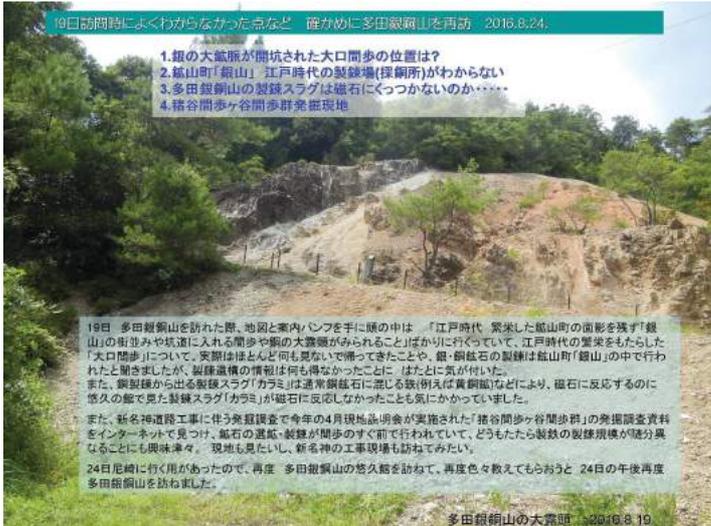
室町時代に一度崩山であった羅華間歩、豊臣時代(天正期)におびたしい羅華間歩を築出し大業集した代表的な間歩が、山先(崩山伝説)の原丹波、原次郎貞吉がこの羅華間歩を発見し、ほうびとして豊臣秀吉の馬印である千成羅華間歩を台えられ入口に掛けられたことから羅華間歩といわれています。

横分に来た豊臣秀吉が崩山のまま坑内に入ったという伝説があります。

右側は羅華間歩周辺の豊臣羅華間歩の様子を表しています。

18日訪問時によくわからなかった点など 確かめに多田銀銅山を再訪 2016.8.24.

1. 羅の大鉱脈が開坑された大口間歩の位置は?
2. 釜山町「釜山」江戸時代の製錬場(採銅所)がわからない
3. 多田銀銅山の製錬スラグは磁石にくっつかないのか……
4. 猪谷間歩ヶ谷間歩製錬現場



18日 多田銀銅山を訪れた際、地図と案内パンフを手に膝の中は「江戸時代 繁栄した釜山町の面影を残す「釜山」の街並みや坑道に入れる間歩や銅の大鉱脈がみられること」ばかりに行っていて、江戸時代の繁栄をもたらした「大口間歩」について、実際はほとんど何も見えないで帰ってきたこと、銀・銅磁石の製錬は釜山町「釜山」の中で行われたと聞きましたが、製錬遺構の情報は何も得なかったことに、はたと気が付いた。

また、銅製錬から出る製錬スラグ「カラム」は通常銅磁石に惹ける鉄(例えば黄銅鉱)などにより、磁石に反応するのに悠久の館で見た製錬スラグ「カラム」が磁石に反応しなかったことも気がかかっていました。

また、新名神道路工事に伴う発掘調査で今年の4月現地説明会が実施された「猪谷間歩ヶ谷間歩」の発掘調査資料をインターネットで見つけ、磁石の選鉱・製錬が間歩のすぐ前で行われていて、どうもたまたま製錬の製錬規模が随分異なることも興味津々。現地も見たいし、新名神の工事現場も訪ねてみたい。

24日尼崎に行く用があったので、再度 多田銀銅山の悠久館を訪ねて、再度色々教えてもらおうと 24日の午後再度多田銀銅山を訪ねました。

多田銀銅山の大量頭 2016.8.19



台所間歩 13:34
 多田銀銅山「露地」 13:37
 釜山町「釜山」中町 13:34
 釜山川源流の合流点 13:50
 「釜山」中町 13:50
 釜山町「悠久の館」 13:59
 釜山町「釜山」入口 14:21
 尼崎へ 14:21
 釜山口バス停 15:02

西と北から流れ下る釜山川源流の合流点



西側から かつて繁栄した釜山町「釜山」の街道筋

北側から かつて繁栄した釜山町「釜山」の街道筋

18日訪問時によくわからなかった点など 確かめに多田銀銅山を再訪 2016.8.24.

1. 羅の大鉱脈が開坑された大口間歩の位置

奈良の大仏の建造に銅をだしたとの伝承をはじめ、多田藩氏や秀吉の隠し殿と言われ、古くから銅・銀を産出してきた多田銀銅山。昔からよく名前は知っていますが、訪れたのは初めて。

一番繁栄したのは江戸時代の寛文年間。大口間歩で良質の大鉱脈が発見され、「釜山三千軒」と呼ばれる大釜山町で採掘から製錬して物産まで行われ、幕府が直轄地として統制したという。その釜山町「釜山」の様子や採掘から製錬の様子などが絵図に描かれている。最近の発掘調査で、絵図に描かれた釜山町の間歩や釜山町の構子がほぼ実際に即していることも分かってきたという。

秀吉の羅華間歩とともに江戸期の繁栄を支えた「大口間歩」はどこなのだろうか？

絵図にはしっかり描かれているのですが、実感が無い。再度悠久館を訪ねて教えてもらう。

「悠久館広場前から奥へ続くその山が大口間歩のある釜山山」だと。余りにも近すぎて、全体の形が見えず、また、今は整備されており、案内図にも記載されていない。(釜山川を挟んだ西の代官所跡からだと山の形が絵図に書かれた通り見えるが、今は立ち入り禁止で入れない。)

この広場の向こうの小山が大口間歩など数多くの間歩が眠る山(225m 釜山山)。

絵図には詳細に間歩の様子や位置が書かれ、調査もされているが、険しい岩山、現在は道も消えているので、よく知っている人がいらないと入るのは危険だと。

釜山徳の北 釜山彦神社奥辺から山の形がみえると……

悠久館では絵図がデジタル化されていてモニターで拡大してみることができました



インターネットで見つけた悠久の館建設当時の川内こうからの写真 釜山山の形が絵図とおり

多田銀銅山を再訪 2016.8.24.



土砂降りの雨の中、ソエ谷峠への道に入って やっと正面に 双頭の念力山の姿が見られました。2016.8.24. この山の山中に江戸時代の多田銀銅山を支えた数多くの間歩が眠っている。



多数の間歩が見える 現在地★ 本町

多田銀銅山を再訪 2016.8.24.



釜山川合流点から西へ源流に沿って、ソエ谷峠・滝口番所への道へ 2016.8.24. この夏初めて、土砂降りの雨にわか雨に見舞われる中、ちょっとソエ谷峠・滝口番所への道の道にも入ってみました。入ってすぐのところにも崖の岩間に間歩の穴がありました。

3. 多田銀銅山の製錬スラグは磁石にくっつかないのか……

銅製錬から出る製錬スラグ「カラム」は通常銅鉱石に混じる鉄(例えば黄銅鉱)などにより、磁石に反応するの……



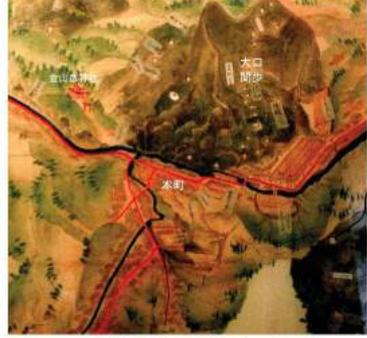
精鉱され、鉄分の少ない銅鉱石がつかわれたのか……



平野跡が高台に残る銀山川合流点 背後に大口開歩のある急カ山 2016.8.24 河原には大小スラグがゴロゴロ転がっている

2. 多田銀銅山の鉛・銅生産量 収量はどこ?

「銀山」地区の中では「探銅所」と呼ばれるような大規模な製錬場はなく、銀山川沿いに立ち並ぶ家並の中……



崖根に廃採りある製錬場の吹き屋 (田原口事務所南側)

本町にも吹屋が点在しているが、この位置は254号

日清野多田銀銅山記の複製文書 複製に描かれた「製錬場」

銀山地区にあった製錬場(個人)

銅山へ移された製錬場跡 (横内川沿いの旧用明神地区 (本町、町内))

4. 猪谷間歩ヶ谷間歩群発掘現場を訪ねる

新名神道路建設が進む猪猪谷 2016.8.24

8月19日 多田銀銅山を訪ねた後、関係資料をインターネットで調べて、偶然、多田銀銅山と同じ銅製錬「銀山製錬(製名川水系)」に隣接する第一山一帯……



場所は銀山川の一つ南の「久保 猪猪谷」から西へ、国道324号を猪猪谷の集落から宝塚市の切畑へ向かう途中の平野跡の一角……

現地説明会の資料やインターネットにアップされている地図によれば、二つの収蔵庫周辺が発掘調査され、17世紀後半……



途中で雨にやられて、ちよと色も変化していますが、河原で堆石をいろいろと磁石くずや製錬スラグ(カラム)をあててみましたが、やっぱり磁石がくっつかず……

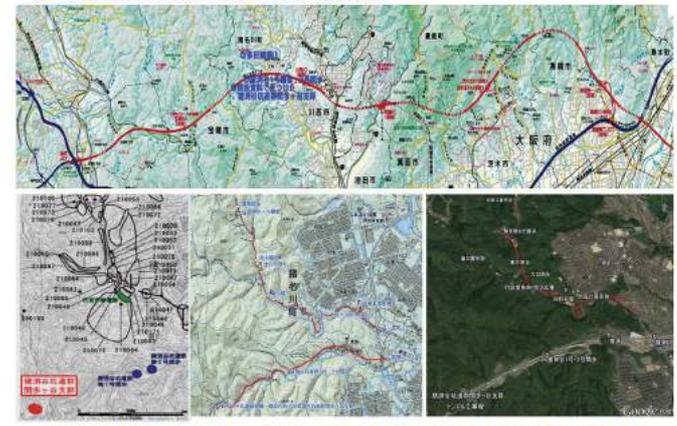
多田銀銅山の「カラム」もやはり磁石にくっつかない……

カラムには鉄分が含まれ、磁石に反応すると思っていたのですが、銀山川で拾ったカラムが磁石に反応しなかったのが不思議で、小さなカラム片をバケツに入れて置いたのですが、ごく小さな強力なネオジム磁石を近づけると、部分的にくっつくところがありました……

また、写真片と思われるカラム、ネオジム磁石に反応し、多田銀銅山の「カラム」も鉄分が含まれていることを確認したので、訂正します。 2016.9.9. Mutsu Nakanishi

新名神道路建設が進む猪猪谷 2016.8.24

この新名神工事現場は広島の川原から西へ宝塚へ、猪猪谷を越える国道324に沿って、多田の領・銀山製錬がある東原の山頂を抜けて行く地点……



新名神高速道路工事ルート図と現地説明会のあった猪猪谷1号間歩・2号間歩の位置を勝手に推察

猪猪谷の間歩発掘現場探して 工事中の新名神高速道路に沿って歩く 2016.8.24

猪猪谷バス停より、工事中の新名神西へ、猪猪谷の集落を抜けて 宝塚市切畑への峠へ

多田銀銅山から銀山川バス停へ戻ってきたのは午後4時、猪猪谷へは 川西への広い坂道国道12号を南へ一つ坂を越えた猪猪谷口に出て、新名神の工事が進む谷筋を少し登ったところである……



広島の銀山川バス停 東側に田原を東西に抜ける工事中の新名神 南へ国道12の放射線を越えて猪猪谷口へ 2016.8.24



猪猪谷バス停 猪猪谷には新名神道路建設中の工事現場が広がる国道12号 広島の谷の交差点 2016.8.24 東西に広がる新名神の工事現場に沿って 南へ猪猪谷から宝塚市切畑へ、猪猪谷を越える国道324号線である 久しぶりを見て多田の工事現場に好奇心がメラメラ

新名神道路建設が進む猪猪谷 2016.8.24



猪猪谷の集落の西端から 東方面 工事中の新名神道路を眺める 2016.8.24

国道324号に入ると東側は巨大な新名神の土盛りがそびえ、その間を付け替え工事中の猪猪谷川と川筋が谷を縫って行く……



新名神の工事が進む 猪猪谷国道324 左の写真 西側 猪猪谷谷方面 右の写真 東側 猪名川・川西方面 2016.8.24



猪猪谷の集落の入口 東側は集落の南を行くが、集落を迂回して、また、東道に合流する 2016.8.24



さらに遡って 時々、現地説明会資料をみつけた間歩や銅選鉱・製錬遺構が出た猪淵谷坑道群間歩ヶ谷支群の場所に向かう。ほぼ今の現在 宝塚へ抜けるトンネル工事が行われている位置へ県道をのぼってゆく。



このあたりだと思うのですが、県道の両側に点在する工事用人口や林へ通じる遊道も中には入れます。また、工事関係者からは遺跡について わからず。ただ、この奥の斜面の林の中に小さな祠が築られていました。

新名神道路建設が進む猪淵谷 2016.8.24.



新名神道路建設が進む猪淵谷 2016.8.24.





再度 猪瀨谷 間歩ヶ谷1号-2号間歩道は下ってくる。やっぱり このあたりだなあと 2016.8.24. デジカメに収めた位置も 周辺には測れないですが、 ちょっとずれているような気がします。



この峠のトンネル工事現場が現説資料にあった間歩や銅選鉱・製錬遺構が出た 猪瀨谷坑道群間歩ヶ谷支群 2016.8.24

摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川 多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く

小さい時から よく名前は知っていた北摂川西の奥の多田銀銅山ですが、初めて訪れることができました。もっと深い山かと思っていたのですが、近頃は大阪のベトナムタウンとして、都市化が急速に進行中。今も新名神の工事が進む発展途上の地域。びっくりでした。

坑道にも入れたり、山に登ることもなく銅鉱脈の大露頭が見れたのには本当にびっくり。一番の収穫。また、銅・銀製錬のプロセスが、繁栄した江戸時代になっても 手作り工風感が強いものにもびっくりで、鉱山町「銀山」も たたら製鉄の鉄山とは随分印象が違うと。

国の史跡に指定されたところで、キャッチフレーズばかりが、ちょっと先行しているイメージが強い。

奈良の大仏の銅 多田源氏・秀吉の埋蔵金 そして 南蛮吹もいち早く取り入れたのが多田銀銅山とも。自然銀や硫化物鉱石が枯渇して衰退しながらも、硫化物原料を大量に使い再度繁栄に転じるなど技術的な劇変も経験していることも初めて知りました。色々考えをめぐらすと面白い。

また、銀銅山と同じ鉱脈が続く猪瀨谷坑道群間歩ヶ谷支群から坑道の前で鉱石処理から製錬までの銅取り出しの諸施設が見つかったのにも興味津々。初めて目にする銅精錬遺構の写真にびっくりするし、銅製錬のイメージ 随分参考に。

猪瀨谷の新名神建設現場沿いをたどってみました。残念ながら遺構を見られませんでした。夏の暑いなか、ゆったりと色々想像しながら、緑の中の山道の街道筋 ぶらぶら歩くのが結構楽しい。また、川西の街まで30分足らずで、出れるのも魅力。

2回にわたる 銀銅山の鉱山町のぶらぶら歩き すごい夕立にも出会いましたが、楽しい多田銀銅山Walkでした。

2016.8.30. 多田銀銅山walkの資料を整理しながら



2016.8.24 17:40

参考追加資料

東大寺大仏の銅伝承が残る 摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川

多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く 2016. 8.18.& 8.24.

最盛期の江戸時代の街道筋の景観や家並・多数の露頭(坑道)などがそっくりそのまま残る また、すぐ近くで 銅の露頭がみられるのにもびっくりしました。



多田銀銅山 入露頭 2016.8.18. 伊豆

摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川 多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く

参考資料

1. 猪名川町教育委員会編「多田銀銅山」2014.11月
2. 悠久の館 多田銀銅山の絵図 映像資料
3. 豊臣と徳川 潤したヤマ 多田銀銅山(時の回廊) 兵庫県猪名川町 日経新聞 2015/9/11 インターネット より http://www.nikkei.com/article/0GX1ASHC07H2S_X00C15A9AA1P00/
4. 多田銀銅山地区の間歩分布 インターネットより採取資料整理 多田銀銅山跡 探索のpage より <http://www.geocities.jp/1.windmill/ginzan/ginzan.html>
5. 多田銀山史跡保存顕彰会のページ <http://www.tadaginzankenshouka.com/> 多田銀銅山探訪ガイド/多田銀銅山の史跡/
6. 400年前からある“吹き場のまち” — 多田銀山精錬所の街 下財町・山下町 — <http://www.eonet.ne.jp/~koutaro/occs/gezai.htm>
7. 兵庫県まちづくり技術センター 新名神根地区工事現場 猪瀨谷坑道群間歩ヶ谷群現地説明会資料 平成26年3月14日
8. 【Youtube 動画】猪瀨谷坑道群間歩ヶ谷群現地説明会 平成26年3月14日 <https://www.youtube.com/watch?v=ApjlaRy01E>



豊臣と徳川 潤したヤマ 多田銀銅山(時の回廊) 兵庫県猪名川町 日経新聞 2015/9/11 6:00

北摂の山中にある多田銀銅山が今秋、国史跡の指定を受ける。兵庫県猪名川町や川西市、宝塚市など十数キロ四方に多数の小規模な露頭が散在する鉱山地帯で、近世や近代の遺跡が良好に残り、国内鉱業の歩みのシーンを物語る。江戸時代に代官所があった「銀山町」には現在、資料館「悠久の館」が立つ。近くにある青木間歩(まぶ) (坑道)を訪ねた。道中、木立の間から坑道らしい穴があらちのぞく。青木間歩は唯一、内部を見学できる間歩だ。現在の坑道は戦後に崩壊で広がったものだが、天井に小さな立て坑があった。「江戸時代、手廻りで鉱脈を辿った『ひおりの道』の跡です」と猪名川町教育委員会文化財担当の青木実香さんが教えてくれた。照明に荒々しく削られた壁が浮き、地下水が滴る。壁(たがね)で岩を打つ響きが聞こえて気がした。



坑道内を見学できる青木間歩

■11世紀から記録

多田銀銅山には東大寺の大仏造営の際に銅を献上した伝承があるが、史料では11世紀の採銅記録が最も古い。最盛期は16世紀後半から18世紀前半。豊臣秀吉が開発して大坂城の財政を潤したとされる。万治3年(1650年)に良質な銅脈が見つかったと江戸幕府が直轄し、代官所を置いた。

井沢周二・九州大名豊教授(鉱山学)によるとピーク時は推定で銀は佐渡に、銅は足尾に次ぐ産出量であったという。吹き場(ふきや) (精錬所)が76軒も立ち、それにぎわいぶりは「銀山三千軒」と呼ばれた。だが間もなく湧水のため採掘が難しくなり、高品位鉱石も枯渇。天和2年(1682年)に民間請負に変えられた。

平賀源内が訪れ、対策を講じたが良業はなかつた記録がある。それでも住民や民間企業が採掘を続け、閉山したのは1973年だった。



● 11世紀 採銅 ● 16世紀後半 最盛期 ● 18世紀前半 最盛期 ● 1650年 江戸幕府直轄 ● 1682年 民間請負 ● 1973年 閉山 ● 1979年 閉山 ● 1982年 閉山 ● 1983年 閉山 ● 1984年 閉山 ● 1985年 閉山 ● 1986年 閉山 ● 1987年 閉山 ● 1988年 閉山 ● 1989年 閉山 ● 1990年 閉山 ● 1991年 閉山 ● 1992年 閉山 ● 1993年 閉山 ● 1994年 閉山 ● 1995年 閉山 ● 1996年 閉山 ● 1997年 閉山 ● 1998年 閉山 ● 1999年 閉山 ● 2000年 閉山 ● 2001年 閉山 ● 2002年 閉山 ● 2003年 閉山 ● 2004年 閉山 ● 2005年 閉山 ● 2006年 閉山 ● 2007年 閉山 ● 2008年 閉山 ● 2009年 閉山 ● 2010年 閉山 ● 2011年 閉山 ● 2012年 閉山 ● 2013年 閉山 ● 2014年 閉山 ● 2015年 閉山 ● 2016年 閉山 ● 2017年 閉山 ● 2018年 閉山 ● 2019年 閉山 ● 2020年 閉山 ● 2021年 閉山 ● 2022年 閉山 ● 2023年 閉山 ● 2024年 閉山 ● 2025年 閉山 ● 2026年 閉山 ● 2027年 閉山 ● 2028年 閉山 ● 2029年 閉山 ● 2030年 閉山 ● 2031年 閉山 ● 2032年 閉山 ● 2033年 閉山 ● 2034年 閉山 ● 2035年 閉山 ● 2036年 閉山 ● 2037年 閉山 ● 2038年 閉山 ● 2039年 閉山 ● 2040年 閉山 ● 2041年 閉山 ● 2042年 閉山 ● 2043年 閉山 ● 2044年 閉山 ● 2045年 閉山 ● 2046年 閉山 ● 2047年 閉山 ● 2048年 閉山 ● 2049年 閉山 ● 2050年 閉山 ● 2051年 閉山 ● 2052年 閉山 ● 2053年 閉山 ● 2054年 閉山 ● 2055年 閉山 ● 2056年 閉山 ● 2057年 閉山 ● 2058年 閉山 ● 2059年 閉山 ● 2060年 閉山 ● 2061年 閉山 ● 2062年 閉山 ● 2063年 閉山 ● 2064年 閉山 ● 2065年 閉山 ● 2066年 閉山 ● 2067年 閉山 ● 2068年 閉山 ● 2069年 閉山 ● 2070年 閉山 ● 2071年 閉山 ● 2072年 閉山 ● 2073年 閉山 ● 2074年 閉山 ● 2075年 閉山 ● 2076年 閉山 ● 2077年 閉山 ● 2078年 閉山 ● 2079年 閉山 ● 2080年 閉山 ● 2081年 閉山 ● 2082年 閉山 ● 2083年 閉山 ● 2084年 閉山 ● 2085年 閉山 ● 2086年 閉山 ● 2087年 閉山 ● 2088年 閉山 ● 2089年 閉山 ● 2090年 閉山 ● 2091年 閉山 ● 2092年 閉山 ● 2093年 閉山 ● 2094年 閉山 ● 2095年 閉山 ● 2096年 閉山 ● 2097年 閉山 ● 2098年 閉山 ● 2099年 閉山 ● 2100年 閉山 ● 2101年 閉山 ● 2102年 閉山 ● 2103年 閉山 ● 2104年 閉山 ● 2105年 閉山 ● 2106年 閉山 ● 2107年 閉山 ● 2108年 閉山 ● 2109年 閉山 ● 2110年 閉山 ● 2111年 閉山 ● 2112年 閉山 ● 2113年 閉山 ● 2114年 閉山 ● 2115年 閉山 ● 2116年 閉山 ● 2117年 閉山 ● 2118年 閉山 ● 2119年 閉山 ● 2120年 閉山 ● 2121年 閉山 ● 2122年 閉山 ● 2123年 閉山 ● 2124年 閉山 ● 2125年 閉山 ● 2126年 閉山 ● 2127年 閉山 ● 2128年 閉山 ● 2129年 閉山 ● 2130年 閉山 ● 2131年 閉山 ● 2132年 閉山 ● 2133年 閉山 ● 2134年 閉山 ● 2135年 閉山 ● 2136年 閉山 ● 2137年 閉山 ● 2138年 閉山 ● 2139年 閉山 ● 2140年 閉山 ● 2141年 閉山 ● 2142年 閉山 ● 2143年 閉山 ● 2144年 閉山 ● 2145年 閉山 ● 2146年 閉山 ● 2147年 閉山 ● 2148年 閉山 ● 2149年 閉山 ● 2150年 閉山 ● 2151年 閉山 ● 2152年 閉山 ● 2153年 閉山 ● 2154年 閉山 ● 2155年 閉山 ● 2156年 閉山 ● 2157年 閉山 ● 2158年 閉山 ● 2159年 閉山 ● 2160年 閉山 ● 2161年 閉山 ● 2162年 閉山 ● 2163年 閉山 ● 2164年 閉山 ● 2165年 閉山 ● 2166年 閉山 ● 2167年 閉山 ● 2168年 閉山 ● 2169年 閉山 ● 2170年 閉山 ● 2171年 閉山 ● 2172年 閉山 ● 2173年 閉山 ● 2174年 閉山 ● 2175年 閉山 ● 2176年 閉山 ● 2177年 閉山 ● 2178年 閉山 ● 2179年 閉山 ● 2180年 閉山 ● 2181年 閉山 ● 2182年 閉山 ● 2183年 閉山 ● 2184年 閉山 ● 2185年 閉山 ● 2186年 閉山 ● 2187年 閉山 ● 2188年 閉山 ● 2189年 閉山 ● 2190年 閉山 ● 2191年 閉山 ● 2192年 閉山 ● 2193年 閉山 ● 2194年 閉山 ● 2195年 閉山 ● 2196年 閉山 ● 2197年 閉山 ● 2198年 閉山 ● 2199年 閉山 ● 2200年 閉山 ● 2201年 閉山 ● 2202年 閉山 ● 2203年 閉山 ● 2204年 閉山 ● 2205年 閉山 ● 2206年 閉山 ● 2207年 閉山 ● 2208年 閉山 ● 2209年 閉山 ● 2210年 閉山 ● 2211年 閉山 ● 2212年 閉山 ● 2213年 閉山 ● 2214年 閉山 ● 2215年 閉山 ● 2216年 閉山 ● 2217年 閉山 ● 2218年 閉山 ● 2219年 閉山 ● 2220年 閉山 ● 2221年 閉山 ● 2222年 閉山 ● 2223年 閉山 ● 2224年 閉山 ● 2225年 閉山 ● 2226年 閉山 ● 2227年 閉山 ● 2228年 閉山 ● 2229年 閉山 ● 2230年 閉山 ● 2231年 閉山 ● 2232年 閉山 ● 2233年 閉山 ● 2234年 閉山 ● 2235年 閉山 ● 2236年 閉山 ● 2237年 閉山 ● 2238年 閉山 ● 2239年 閉山 ● 2240年 閉山 ● 2241年 閉山 ● 2242年 閉山 ● 2243年 閉山 ● 2244年 閉山 ● 2245年 閉山 ● 2246年 閉山 ● 2247年 閉山 ● 2248年 閉山 ● 2249年 閉山 ● 2250年 閉山 ● 2251年 閉山 ● 2252年 閉山 ● 2253年 閉山 ● 2254年 閉山 ● 2255年 閉山 ● 2256年 閉山 ● 2257年 閉山 ● 2258年 閉山 ● 2259年 閉山 ● 2260年 閉山 ● 2261年 閉山 ● 2262年 閉山 ● 2263年 閉山 ● 2264年 閉山 ● 2265年 閉山 ● 2266年 閉山 ● 2267年 閉山 ● 2268年 閉山 ● 2269年 閉山 ● 2270年 閉山 ● 2271年 閉山 ● 2272年 閉山 ● 2273年 閉山 ● 2274年 閉山 ● 2275年 閉山 ● 2276年 閉山 ● 2277年 閉山 ● 2278年 閉山 ● 2279年 閉山 ● 2280年 閉山 ● 2281年 閉山 ● 2282年 閉山 ● 2283年 閉山 ● 2284年 閉山 ● 2285年 閉山 ● 2286年 閉山 ● 2287年 閉山 ● 2288年 閉山 ● 2289年 閉山 ● 2290年 閉山 ● 2291年 閉山 ● 2292年 閉山 ● 2293年 閉山 ● 2294年 閉山 ● 2295年 閉山 ● 2296年 閉山 ● 2297年 閉山 ● 2298年 閉山 ● 2299年 閉山 ● 2300年 閉山 ● 2301年 閉山 ● 2302年 閉山 ● 2303年 閉山 ● 2304年 閉山 ● 2305年 閉山 ● 2306年 閉山 ● 2307年 閉山 ● 2308年 閉山 ● 2309年 閉山 ● 2310年 閉山 ● 2311年 閉山 ● 2312年 閉山 ● 2313年 閉山 ● 2314年 閉山 ● 2315年 閉山 ● 2316年 閉山 ● 2317年 閉山 ● 2318年 閉山 ● 2319年 閉山 ● 2320年 閉山 ● 2321年 閉山 ● 2322年 閉山 ● 2323年 閉山 ● 2324年 閉山 ● 2325年 閉山 ● 2326年 閉山 ● 2327年 閉山 ● 2328年 閉山 ● 2329年 閉山 ● 2330年 閉山 ● 2331年 閉山 ● 2332年 閉山 ● 2333年 閉山 ● 2334年 閉山 ● 2335年 閉山 ● 2336年 閉山 ● 2337年 閉山 ● 2338年 閉山 ● 2339年 閉山 ● 2340年 閉山 ● 2341年 閉山 ● 2342年 閉山 ● 2343年 閉山 ● 2344年 閉山 ● 2345年 閉山 ● 2346年 閉山 ● 2347年 閉山 ● 2348年 閉山 ● 2349年 閉山 ● 2350年 閉山 ● 2351年 閉山 ● 2352年 閉山 ● 2353年 閉山 ● 2354年 閉山 ● 2355年 閉山 ● 2356年 閉山 ● 2357年 閉山 ● 2358年 閉山 ● 2359年 閉山 ● 2360年 閉山 ● 2361年 閉山 ● 2362年 閉山 ● 2363年 閉山 ● 2364年 閉山 ● 2365年 閉山 ● 2366年 閉山 ● 2367年 閉山 ● 2368年 閉山 ● 2369年 閉山 ● 2370年 閉山 ● 2371年 閉山 ● 2372年 閉山 ● 2373年 閉山 ● 2374年 閉山 ● 2375年 閉山 ● 2376年 閉山 ● 2377年 閉山 ● 2378年 閉山 ● 2379年 閉山 ● 2380年 閉山 ● 2381年 閉山 ● 2382年 閉山 ● 2383年 閉山 ● 2384年 閉山 ● 2385年 閉山 ● 2386年 閉山 ● 2387年 閉山 ● 2388年 閉山 ● 2389年 閉山 ● 2390年 閉山 ● 2391年 閉山 ● 2392年 閉山 ● 2393年 閉山 ● 2394年 閉山 ● 2395年 閉山 ● 2396年 閉山 ● 2397年 閉山 ● 2398年 閉山 ● 2399年 閉山 ● 2400年 閉山 ● 2401年 閉山 ● 2402年 閉山 ● 2403年 閉山 ● 2404年 閉山 ● 2405年 閉山 ● 2406年 閉山 ● 2407年 閉山 ● 2408年 閉山 ● 2409年 閉山 ● 2410年 閉山 ● 2411年 閉山 ● 2412年 閉山 ● 2413年 閉山 ● 2414年 閉山 ● 2415年 閉山 ● 2416年 閉山 ● 2417年 閉山 ● 2418年 閉山 ● 2419年 閉山 ● 2420年 閉山 ● 2421年 閉山 ● 2422年 閉山 ● 2423年 閉山 ● 2424年 閉山 ● 2425年 閉山 ● 2426年 閉山 ● 2427年 閉山 ● 2428年 閉山 ● 2429年 閉山 ● 2430年 閉山 ● 2431年 閉山 ● 2432年 閉山 ● 2433年 閉山 ● 2434年 閉山 ● 2435年 閉山 ● 2436年 閉山 ● 2437年 閉山 ● 2438年 閉山 ● 2439年 閉山 ● 2440年 閉山 ● 2441年 閉山 ● 2442年 閉山 ● 2443年 閉山 ● 2444年 閉山 ● 2445年 閉山 ● 2446年 閉山 ● 2447年 閉山 ● 2448年 閉山 ● 2449年 閉山 ● 2450年 閉山 ● 2451年 閉山 ● 2452年 閉山 ● 2453年 閉山 ● 2454年 閉山 ● 2455年 閉山 ● 2456年 閉山 ● 2457年 閉山 ● 2458年 閉山 ● 2459年 閉山 ● 2460年 閉山 ● 2461年 閉山 ● 2462年 閉山 ● 2463年 閉山 ● 2464年 閉山 ● 2465年 閉山 ● 2466年 閉山 ● 2467年 閉山 ● 2468年 閉山 ● 2469年 閉山 ● 2470年 閉山 ● 2471年 閉山 ● 2472年 閉山 ● 2473年 閉山 ● 2474年 閉山 ● 2475年 閉山 ● 2476年 閉山 ● 2477年 閉山 ● 2478年 閉山 ● 2479年 閉山 ● 2480年 閉山 ● 2481年 閉山 ● 2482年 閉山 ● 2483年 閉山 ● 2484年 閉山 ● 2485年 閉山 ● 2486年 閉山 ● 2487年 閉山 ● 2488年 閉山 ● 2489年 閉山 ● 2490年 閉山 ● 2491年 閉山 ● 2492年 閉山 ● 2493年 閉山 ● 2494年 閉山 ● 2495年 閉山 ● 2496年 閉山 ● 2497年 閉山 ● 2498年 閉山 ● 2499年 閉山 ● 2500年 閉山 ● 2501年 閉山 ● 2502年 閉山 ● 2503年 閉山 ● 2504年 閉山 ● 2505年 閉山 ● 2506年 閉山 ● 2507年 閉山 ● 2508年 閉山 ● 2509年 閉山 ● 2510年 閉山 ● 2511年 閉山 ● 2512年 閉山 ● 2513年 閉山 ● 2514年 閉山 ● 2515年 閉山 ● 2516年 閉山 ● 2517年 閉山 ● 2518年 閉山 ● 2519年 閉山 ● 2520年 閉山 ● 2521年 閉山 ● 2522年 閉山 ● 2523年 閉山 ● 2524年 閉山 ● 2525年 閉山 ● 2526年 閉山 ● 2527年 閉山 ● 2528年 閉山 ● 2529年 閉山 ● 2530年 閉山 ● 2531年 閉山 ● 2532年 閉山 ● 2533年 閉山 ● 2534年 閉山 ● 2535年 閉山 ● 2536年 閉山 ● 2537年 閉山 ● 2538年 閉山 ● 2539年 閉山 ● 2540年 閉山 ● 2541年 閉山 ● 2542年 閉山 ● 2543年 閉山 ● 2544年 閉山 ● 2545年 閉山 ● 2546年 閉山 ● 2547年 閉山 ● 2548年 閉山 ● 2549年 閉山 ● 2550年 閉山 ● 2551年 閉山 ● 2552年 閉山 ● 2553年 閉山 ● 2554年 閉山 ● 2555年 閉山 ● 2556年 閉山 ● 2557年 閉山 ● 2558年 閉山 ● 2559年 閉山 ● 2560年 閉山 ● 2561年 閉山 ● 2562年 閉山 ● 2563年 閉山 ● 2564年 閉山 ● 2565年 閉山 ● 2566年 閉山 ● 2567年 閉山 ● 2568年 閉山 ● 2569年 閉山 ● 2570年 閉山 ● 2571年 閉山 ● 2572年 閉山 ● 2573年 閉山 ● 2574年 閉山 ● 2575年 閉山 ● 2576年 閉山 ● 2577年 閉山 ● 2578年 閉山 ● 2579年 閉山 ● 2580年 閉山 ● 2581年 閉山 ● 2582年 閉山 ● 2583年 閉山 ● 2584年 閉山 ● 2585年 閉山 ● 2586年 閉山 ● 2587年 閉山 ● 2588年 閉山 ● 2589年 閉山 ● 2590年 閉山 ● 2591年 閉山 ● 2592年 閉山 ● 2593年 閉山 ● 2594年 閉山 ● 2595年 閉山 ● 2596年 閉山 ● 2597年 閉山 ● 2598年 閉山 ● 2599年 閉山 ● 2600年 閉山 ● 2601年 閉山 ● 2602年 閉山 ● 2603年 閉山 ● 2604年 閉山 ● 2605年 閉山 ● 2606年 閉山 ● 2607年 閉山 ● 2608年 閉山 ● 2609年 閉山 ● 2610年 閉山 ● 2611年 閉山 ● 2612年 閉山 ● 2613年 閉山 ● 2614年 閉山 ● 2615年 閉山 ● 2616年 閉山 ● 2617年 閉山 ● 2618年 閉山 ● 2619年 閉山 ● 2620年 閉山 ● 2621年 閉山 ● 2622年 閉山 ● 2623年 閉山 ● 2624年 閉山 ● 2625年 閉山 ● 2626年 閉山 ● 2627年 閉山 ● 2628年 閉山 ● 2629年 閉山 ● 2630年 閉山 ● 2631年 閉山 ● 2632年 閉山 ● 2633年 閉山 ● 2634年 閉山 ● 2635年 閉山 ● 2636年 閉山 ● 2637年 閉山 ● 2638年 閉山 ● 2639年 閉山 ● 2640年 閉山 ● 2641年 閉山 ● 2642年 閉山 ● 2643年 閉山 ● 2644年 閉山 ● 2645年 閉山 ● 2646年 閉山 ● 2647年 閉山 ● 2648年 閉山 ● 2649年 閉山 ● 2650年 閉山 ● 2651年 閉山 ● 2652年 閉山 ● 2653年 閉山 ● 2654年 閉山 ● 2655年 閉山 ● 2656年 閉山 ● 2657年 閉山 ● 2658年 閉山 ● 2659年 閉山 ● 2660年 閉山 ● 2661年 閉山 ● 2662年 閉山 ● 2663年 閉山 ● 2664年 閉山 ● 2665年 閉山 ● 2666年 閉山 ● 2667年 閉山 ● 2668年 閉山 ● 2669年 閉山 ● 2670年 閉山 ● 2671年 閉山 ● 2672年 閉山 ● 2673年 閉山 ● 2674年 閉山 ● 2675年 閉山 ● 2676年 閉山 ● 2677年 閉山 ● 2678年 閉山 ● 2679年 閉山 ● 2680年 閉山 ● 2681年 閉山 ● 2682年 閉山 ● 2683年 閉山 ● 2684年 閉山 ● 2685年 閉山 ● 2686年 閉山 ● 2687年 閉山 ● 2688年 閉山 ● 2689年 閉山 ● 2690年 閉山 ● 2691年 閉山 ● 2692年 閉山 ● 2693年 閉山 ● 2694年 閉山 ● 2695年 閉山 ● 2696年 閉山 ● 2697年 閉山 ● 2698年 閉山 ● 2699年 閉山 ● 2700年 閉山 ● 2701年 閉山 ● 2702年 閉山 ● 2703年 閉山 ● 2704年 閉山 ● 2705年 閉山 ● 2706年 閉山 ● 2707年 閉山 ● 2708年 閉山 ● 2709年 閉山 ● 2710年 閉山 ● 2711年 閉山 ● 2712年 閉山 ● 2713年 閉山 ● 2714年 閉山 ● 2715年 閉山 ● 2716年 閉山 ● 2717年 閉山 ● 2718年 閉山 ● 2719年 閉山 ● 2720年 閉山 ● 2721年 閉山 ● 2722年 閉山 ● 2723年 閉山 ● 2724年 閉山 ● 2725年 閉山 ● 2726年 閉山 ● 2727年 閉山 ● 2728年 閉山 ● 2729年 閉山 ● 2730年 閉山 ● 2731年 閉山 ● 2732年 閉山 ● 2733年 閉山 ● 2734年 閉山 ● 2735年 閉山 ● 2736年 閉山 ● 2737年 閉山 ● 2738年 閉山 ● 2739年 閉山 ● 2740年 閉山 ● 2741年 閉山 ● 2742年 閉山 ● 2743年 閉山 ● 2744年 閉山 ● 2745年 閉山 ● 2746年 閉山 ● 2747年 閉山 ● 2748年 閉山 ● 2749年 閉山 ● 2750年 閉山 ● 2751年 閉山 ● 2752年 閉山 ● 2753年 閉山 ● 2754年 閉山 ● 2755年 閉山 ● 2756年 閉山 ● 2757年 閉山 ● 2758年 閉山 ● 2759年 閉山 ● 2760年 閉山 ● 2761年 閉山 ● 2762年 閉山 ● 2763年 閉山 ● 2764年 閉山 ● 2765年 閉山 ● 2766年 閉山 ● 2767年 閉山 ● 2768年 閉山 ● 2769年 閉山 ● 2770年 閉山 ● 2771年 閉山 ● 2772年 閉山 ● 2773年 閉山 ● 2774年 閉山 ● 2775年 閉山 ● 2776年 閉山 ● 2777年 閉山 ● 2778年 閉山 ● 2779年 閉山 ● 2780年 閉山 ● 2781年 閉山 ● 2782年 閉山 ● 2783年 閉山 ● 2784年 閉山 ● 2785年 閉山 ● 2786年 閉山 ● 2787年 閉山 ● 2788年 閉山 ● 2789年 閉山 ● 2790年 閉山 ● 2791年 閉山 ● 2792年 閉山 ● 2793年 閉山 ● 2794年 閉山 ● 2795年 閉山 ● 2796年 閉山 ● 2797年 閉山 ● 2798年 閉山 ● 2799年 閉山 ● 2800年 閉山 ● 2801年 閉山 ● 2802年 閉山 ● 2803年 閉山 ● 2804年 閉山 ● 2805年 閉山 ● 2806年 閉山 ● 2807年 閉山 ● 2808年 閉山 ● 2809年 閉山 ● 2810年 閉山 ● 2811年 閉山 ● 2812年 閉山 ● 2813年 閉山 ● 2814年 閉山 ● 2815年 閉山 ● 2816年 閉山 ● 2817年 閉山 ● 2818年 閉山 ● 2819年 閉山 ● 2820年 閉山 ● 2821年 閉山 ● 2822年 閉山 ● 2823年 閉山 ● 2824年 閉山 ● 2825年 閉山 ● 2826年 閉山 ● 2827年 閉山 ● 2828年 閉山 ● 2829年 閉山 ● 2830年 閉山 ● 2831年 閉山 ● 2832年 閉山 ● 2833年 閉山 ● 2834年 閉山 ● 2835年 閉山 ● 2836年 閉山 ● 2837年 閉山 ● 2838年 閉山 ● 2839年 閉山 ● 2840年 閉山 ● 2841年 閉山 ● 2842年 閉山 ● 2843年 閉山 ● 2844年 閉山 ● 2845年 閉山 ● 2846年 閉山 ● 2847年 閉山 ● 2848年 閉山 ● 2849年 閉山 ● 2850年 閉山 ● 2851年 閉山 ● 2852年 閉山 ● 2853年 閉山 ● 2854年 閉山 ● 2855年 閉山 ● 2856年 閉山 ● 2857年 閉山 ● 2858年 閉山 ● 2859年 閉山 ● 2860年 閉山 ● 2861年 閉山 ● 2862年 閉山 ● 2863年 閉山 ● 2864年 閉山 ● 2865年 閉山 ● 2866年 閉山 ● 2867年 閉山 ● 2868年 閉山 ● 2869年 閉山 ● 2870年 閉山 ● 2871年 閉山 ● 2872年 閉山 ● 2873年 閉山 ● 2874年

銀山町間歩絵図 本町・大口間歩・代官所付近

大口間歩

(おおくちまど)

江戸時代に良質な結筋(鉱筋)が発見され、ふたたび盛山を迎えるきっかけとなった間歩。寛文期の最重要間歩である。周辺には多数の間歩が描かれ、大口間歩とその周辺の間歩を含め「七口間歩」とも称される。「銀山町間歩」には大口間歩とその枝筋の諸間歩をぐるりと取り囲む幅が描かれ、その重要性がうかがえる。

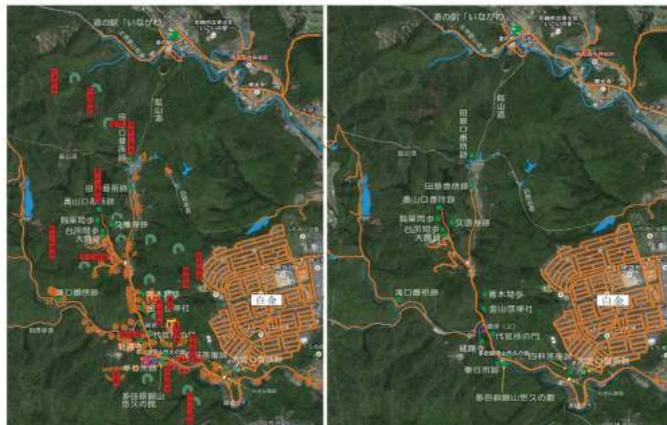
本町

(ほんまち)

銀山町の中心として築かれた町並み。絵図には道の両側には建物が軒を連ねて描かれている。現在も田舎が残され、往時の様子が窺われる。



多田銀銅山地区の間歩分布 インターネットより採取資料整理



多田銀銅山跡 探美 のpageより http://www.geocities.jp/_windmill/ginza/ginzan.html

江戸時代 最盛期の銀山町間歩絵図 (1)
江戸時代 最盛期の銀山町下流の銀山町東部分 大口間歩周辺

銀山町の中心で 代官所・高礼場・本町には吹屋(銅・銀の精錬工房)などの家並みがびっしり並んでいる。また、大口間歩は良質の結筋が発見され、再び繁栄のきっかけとなった間歩。寛永年間の最重要間歩である。絵図には 大口間歩周辺に多数の間歩が記されており、周辺間歩を含め、7口間歩と呼ばれた。



江戸時代 最盛期の銀山町間歩絵図

銀山川が流れる狭い谷筋 道の両側に「銀山三千軒」と呼ばれた鉱山町とともに 当時の盛山を支えた大口間歩・結筋間歩や代官所・金山彦神社(山の神)そして 銀山への4つの入口(番所)【東:大口番所 南:滝口番所 西:奥山口番所 北:原口番所】など当時の多田銀銅山の様子が描かれ、当時の繁栄ぶりうかがえる。(当時の銀山三千軒の中に、際 銅精錬にかかわる吹屋が狭つもあったという) 現在の銀山町の家並りは少なくなりましたが、当時の鉱山町を思い起こさせる景観がそっくりそのまま残っている。



多田銀銅山地区の間歩分布 インターネットより採取資料整理



- ① 千石間歩 ② 鵜沼間歩 ③ 台所間歩 ④ 葉師堂 太閤秀吉公 勧進山神宮 ⑤ 久徳寺
- ⑥ 大水技 ⑦ 菅沼止 ⑧ 御着間歩 ⑨ 階間歩 ⑩ せと谷 ⑪ 金山彦神社 ⑫ 川戸間歩
- ⑬ 桜間歩 ⑭ 谷間歩 ⑮ 大徳間歩 ⑯ 矢竹間歩 ⑰ 大口新間歩 ⑱ 珍鉱間歩 ⑲ 御米蔵之所
- ⑳ 本間歩 ㉑ 水技 ㉒ 銀山代官所 ㉓ 大金間歩 ㉔ 十六人間歩 ㉕ 千石院寺 福荷社
- ㉖ 甘露寺 ㉗ 御神宮 御旅所 ㉘ 牢屋 ㉙ 新口 御小屋 番所

江戸時代 最盛期の銀山町間歩絵図 (2)
江戸時代 最盛期の銀山町 上流の銀山町西北部分 狐車間歩周辺

秀吉の馬印を掲げることを許されたと伝えられるほど大量の銅・銀を産出。秀吉・大坂を支え、秀吉の陣し量とも呼ばれたほど、大口間歩とともに多田銀銅山の中心の間歩。



新名神広根地区工事現場 猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷群現地説明会資料 平成26年3月14日 より

製錬

江戸時代の文獻によると、多田銀銅山ではからくから「南窓吹」が行われていたようで、寛永9年(1632)、多田銀銅山の製錬技術が生野銅山に伝えられたという記録が残されています。当時、多くの鉱山が「南窓吹」の状態で大坂へ出荷するなか、多田銀銅山は製錬の他に「南窓吹」(後製錬)の状態で大坂へ出荷していました。多田銀銅山では、元禄元年(1686)、山下役所の敷地にもついで、これまで各山々で行われていた山吹(製錬)が禁止され、銀山町と山下町の吹屋での製錬に限定されるようになります。

① 解紅

解紅は、赤い銅石を約6〜7日間焙煎し、銅石の塊を砕きます。

⑦ 灰吹

解紅を焙煎した銅石を灰吹炉に入れ、灰吹を行います。灰吹は、銅石を焙煎し、銅石の塊を砕きます。

② 鉛吹

解紅を焙煎した銅石を鉛吹炉に入れ、鉛吹を行います。鉛吹は、銅石を焙煎し、銅石の塊を砕きます。

⑧ 南窓吹

解紅を焙煎した銅石を南窓吹炉に入れ、南窓吹を行います。南窓吹は、銅石を焙煎し、銅石の塊を砕きます。

③ 葉吹

解紅を焙煎した銅石を葉吹炉に入れ、葉吹を行います。葉吹は、銅石を焙煎し、銅石の塊を砕きます。

⑨ 合吹

解紅を焙煎した銅石を合吹炉に入れ、合吹を行います。合吹は、銅石を焙煎し、銅石の塊を砕きます。

豊臣と徳川 潤したヤマ 多田銀銅山(時の回廊) 兵庫県猪名川町 日経新聞 2015/9/11 6:00

「南窓吹」を駆使

井沢名譽教授は「近世鉱業で重要な「南窓吹(ぶき)」が発見された」と点を重視する。南窓吹は銅石から鉛を分離する。当時では最先端の精錬技術。大坂の吹屋で用いられていた最新技術が17世紀前半には多田でも駆使され、生野銅山に伝えたことが分かっていく。大坂平野の中心からわずか約20キロの地の利が、技術導入につながった。

探鉱から精錬までを図解した「猪瀬川町多田銀銅山石吹立(はくせききたて)次第荒増(あらまし)」など様々な古文書が現存し、鉱山経営の実態と吹屋の歴史が史料から確認できる点でも、貴重な遺跡だといえる。

猪名川町は15年前から遺跡の保存と活用を本格化している。だが保護も一部、一部の心ない人たちが私有地に無断で立ち入るなどで遺跡や間歩で銅石を採取し、遺跡を破壊する被害が深刻化している。多田に残る秀吉の埋蔵金伝説もこうした行為の一環という。町教委によると埋蔵金の在りかを記したと称する文書はどれも明治以降のもの。採掘資金を調達しようとする鉱山の豊かさを誇ったと言ったように、井沢名譽教授は「全くの作り話」と断る。「価値ある文化財として正しく認識してもらい後世に残したい」と青木さんは話す。

鉱業近代化の証し

明治維新の後、各地の有力鉱山が官営化される中で、多田銀銅山は民間の手で採掘が続けられた。猪名川町には島根県産の鉱山家、郷家が明治40年(1907年)に先進的な権威派選鉱と精錬場を建設。第1次大戦後の御宿格暴落のため未完成に終わったが「官営鉱山とは異なる鉱業近代化の証し」と井沢英二・九州大名誉教授は指摘する。元が遺りの遺構が資料館「悠久の館」の隣地に保存されている。

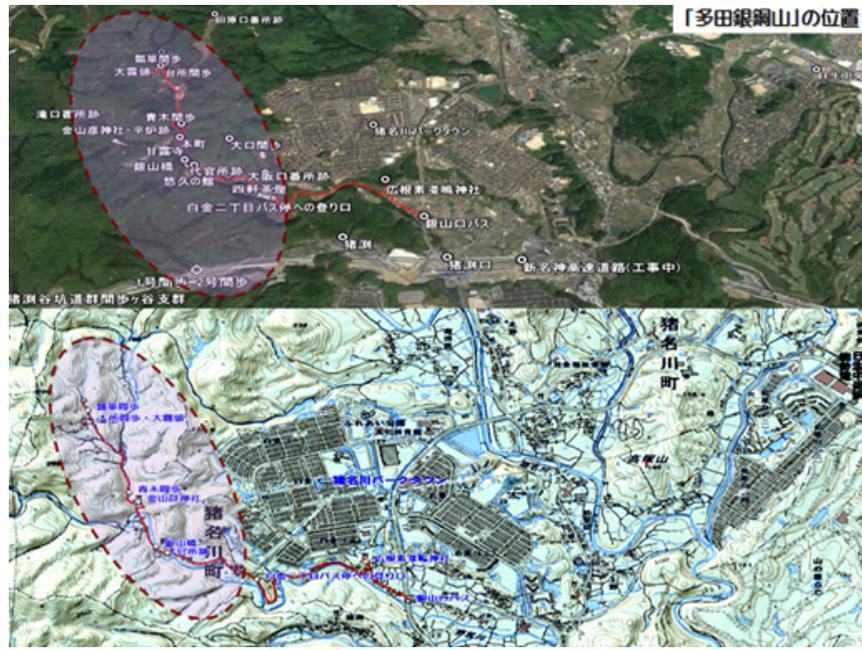
兵庫県川西市にも江戸時代は多田銀銅山の吹屋(精錬所)が集積し、明治以降も銅の精錬が続けられた。同市郷土館は昭和初期まで操業していた近代の精錬所の経営者、平安(ひらや)家の旧邸宅を利用したもの。敷地内には精錬所の遺構が残るほか、鉱山資料や発掘成果の展示室を設けてあり、往時の様子を今に伝える。



<https://www.youtube.com/watch?v=ApjlaRy01Ek> などより



坑口のすぐ前に隣接して、選鉱・焙焼・精錬の銅精錬の諸施設があるのにびっくりしました。



摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川
多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩

総括

総括

小さい時から よく名前は知っていた北摂川西の奥の多田銀銅山ですが、初めて訪れることができました。もっと深い山かと思っていましたが、近隣は大阪のベツタウンとして、都市化が急速に進行中。今も新名神の工事が進む発展途上の地域。びっくりでした。

坑道にも入れたし、山に登ることもなく銅鉱脈の大露頭が見れたのには本当にびっくり。一番の収穫。

また、銅・銀製錬のプロセスが、繁栄した江戸時代になっても 手作り工房感が強いのもびっくりで、鉱山町「銀山」も たたら製鉄の鉄山とは随分印象が違ふと。

国の史跡に指定されたところで、キャッチフレーズばかりが、ちょっと先行しているイメージが強い。

奈良の大仏の銅 多田源氏・秀吉の埋蔵金 そして 南蛮吹も いち早く取り入れたのが多田銀銅山とも。自然銅や酸化物鉱石が枯渇して衰退しながらも、硫化物原料を大量に使い再度繁栄に転じるなど技術的な劇変も経験していることも初めて知りました。色々考えをめぐらすと面白い。

また、銀銅山と同じ鉱脈が続く猪瀧谷坑道群間歩ヶ谷支群から坑道の前で鉱石処理から製錬までの銅取り出しの諸施設が見つかったのにも興味津々。初めて目にする銅精錬遺構の写真にびっくりするし、銅製錬のイメージ 随分参考に。

猪瀧谷の新名神建設現場沿いをたどってみました。残念ながら遺構を見られませんでした。夏の暑いさなか、ゆったりと色々想像しながら、緑の中の山里の街道筋 ぶらぶら歩くと結構楽しい。また、川西の街まで30分足らずで、出れるのも魅力。

2回にわたる 銀銅山の鉱山町のぶらぶら歩き
すごい夕立にも出会いましたが 楽しい多田銀銅山Walkでした。

2016.8.30. 多田銀銅山walkの資料を整理しながら

参考資料

1. 猪名川町教育委員会編「多田銀銅山」 2014.11月
2. 悠久の館 多田銅銀山の絵図 映像資料
3. 豊臣と徳川 潤したヤマ 多田銀銅山(時の回廊)兵庫県猪名川町 日経新聞 2015/9/11
インターネット より http://www.nikkei.com/article/DGXLASHC07H2S_X00C15A9AA1P00/
4. 多田銀銅山地区の間歩分布 インターネットより採取資料整理
多田銅銀山跡 探索 のpage より http://www.geocities.jp/i_windmill/ginzan/ginzan.html
5. 多田銀山史跡保存顕彰会 のページ
<http://www.tadaginzankenshoukai.com/>多田銀銅山探訪ガイド/多田銀銅山の史跡/
6. 400年前からある“吹き場のまち” — 多田銀山精錬所の街 下財町・山下町 —
<http://www.eonet.ne.jp/~koutaro/local/gezai.htm>
7. 兵庫県まちづくり技術センター
新名神広根地区工事現場 猪瀧谷坑道群間歩ヶ谷群現地説明会資料 平成26年3月14日
8. 【Youtube 動画】猪瀧谷坑道群間歩ヶ谷群現地説明会 平成26年3月14日
<https://www.youtube.com/watch?v=ApjlaRy01Ek>